

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2227 号

Tadalafil is sufficiently effective for severe chronic prostatitis/chronic pelvic pain syndrome in patients with benign prostatic hyperplasia.

慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群を合併する前立腺肥大症患者に対してタダラフィンは効果的である

平松 一平 (ひらまつ いっぺい)

博士 (医学)

論文内容の要旨

前立腺肥大症を有する男性にしばしば慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群 (CP/CPPS) を合併することが知られている。下部尿路症状に対しては $\alpha 1$ 遮断薬や 5α 還元酵素阻害薬が有効であるが、CP/CPPS に対しては必ずしも有効ではない。CP/CPPS は治療に難渋することが多く、有効な治療法が確立されていない。前立腺肥大症や CP/CPPS は前立腺組織内の炎症細胞浸潤が関連することが報告されている。タダラフィンは前立腺肥大症治療薬として保険適用となっているが、その副次効果として抗炎症作用を有することが知られており、CP/CPPS に対する症状改善効果が期待されている。我々はすでに前立腺組織内の炎症細胞浸潤の程度と慢性前立腺症状スコア (NIH-CPSI) が相関することを報告した。倫理委員会承認のもと下部尿路症状を伴う前立腺肥大症患者 74 名に対しタダラフィンを投与し、その効果を NIH-CPSI を含めた各種質問票にて治療前、治療 12 週間後に関して検討した。NIH-CPSI において疼痛に関するサブスコアが 4 点以上の患者は CP/CPPS を有することが報告されており、当研究においては 24 名 (32.5%) が疼痛サブスコアが 4 点以上 (CP/CPPS 合併群) であった。治療前における国際前立腺症状スコア (IPSS) を、CP/CPPS 合併群と非合併群で比較したところ、CP/CPPS 合併群で有意に高かった (19.6 ± 5.3 , 16.6 ± 5.3)。また治療前後における IPSS の変化量を CP/CPPS 合併群と非合併群とで比較したところ、合併群において有意に変化量が大きかった (-8.5 ± 7.1 , -3.0 ± 5.6)。当研究により、CP/CPPS 合併群は非合併群と比較して排尿状態が悪い傾向にあったが、タダラフィンは効果的に排尿状態を改善させることが示された。前立腺組織内の炎症細胞浸潤と排尿状態の悪化は相関係数にあることが知られており、タダラフィンの抗炎症作用が有用であったと考察される。タダラフィンは CP/CPPS を合併する前立腺肥大症患者に対して十分効果的である。